

令和〇年〇月〇日

園長 〇〇 様

社会福祉法人ひまわり保育園 〇〇〇〇

研修報告書（保育士・教育職用）

このたび、下記のとおり管理職研修を受講いたしましたのでご報告いたします。

記

1. 研修名 乳児保育と安全管理セミナー
2. 実施場所 市民会館 第3ホール（ハイブリッド配信あり）
2. 実施日 2025年8月20日
3. 主催 〇〇地区保育士会・日本保健保育学会 協賛
4. 講師 臨床発達心理士／保育研究員 佐藤 茉莉 氏
5. 研修目的 乳児保育における安全管理の重要性を理解し、誤飲・転倒・睡眠時の事故など日常のリスクを最小限に抑えるための環境設定を学ぶ。
併せて、子どもの発達過程に合わせた関わり方と保護者支援の両立を意識し、保育の質を高めることを目的とする。
5. 主な研修内容
 - ・0～2歳児の発達の特性と行動心理
 - ・乳児期に多い事故・怪我の傾向と予防策
 - ・室内の安全環境の整備と見直しポイント
 - ・睡眠時のSIDS対策と保護者への説明方法
 - ・チーム保育・連携時の情報共有チェックリスト活用事例
6. 学び・気づき
 - ・「安全管理＝禁止ではなく、安心して挑戦できる環境づくり」であることを再確認した。
 - ・子どもが転ぶ・ぶつかる経験も発達の一部であり、過度な制止よりも「見守る力」とリスクを予測する力が保育者には求められる。
 - ・脳の発達における五感刺激の重要性を再認識し、日常の遊びにも「触覚・聴覚・視覚」を意識して取り入れる必要があると感じた。
 - ・保護者との連携では、“指摘”ではなく“共感と共有”が信頼関係を築く鍵であると気づいた。

7. 今後の計画
1. 教室レイアウトを再点検し、床置き玩具の位置や導線の安全性を職員全員で確認する。
 2. SIDS 防止チェック表を睡眠管理台帳に添付し、午睡中の記録を定量化する。
 3. 保護者向けに「家庭でもできる安全習慣」と題した簡易プリントを配布し、園と家庭の連携を強化する。
 4. 園内研修で得た知識を共有し、全職員の安全意識の底上げを図る。
8. 感想・所感
- 今回の研修で、保育現場の安全対策には「設備」よりも「意識とチーム連携」が欠かせないことを実感した。日常のちょっとした声かけや目配りが、大きな事故を防ぐ第一歩だとあらためて感じた。
- また、子どもの発達を尊重しながらリスクを最小限にすることが“保育の専門性”であると再確認した。
- 講師の佐藤氏が言われた「保育士は“安心をデザインする職業”」という言葉が今後の指針にしたい。
9. 添付資料
- ・研修スライド抜粋（PDF）
 - ・チェックリスト「安全環境点検表」
 - ・ワークシート「ヒヤリハット改善計画」

以上